

世界遺産

佐渡金銀山候補に

文化庁 石見銀山と統合要求

文化庁は二十六日、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界文化遺産登録の国内候補として、

佐渡市が提案した「金と銀の島、佐渡」など五件を新たに選んだ。全

国の自治体から公募した三十二件から選定した。これにより国内候補は世界文化遺産登録の前提と

なるユネスコの暫定リストに既に掲載されている八件を含め、計十三件となる。(関連記事30面に)

ただ佐渡金銀山について、同日の文化審議会世界文化遺産特別委員会は「既に世界遺産に登録されている石見銀山遺跡(島根県)との組み合わせ、顕著な普遍的価値

を持つ可能性が高い」と指摘。石見銀山遺跡と「大・統合を図る遺産」と位置付け、暫定リスト掲載に向けて名称やテーマを検討するよう求めた。

同日の文化審議会世界文化遺産特別委員長の藤本強東大名誉教授は「遺産の名称変更など文化庁と佐渡、石見の関係者間で調整は必要だが、二つの

遺跡の組み合わせで価値は上がる」と語った。ほかに国内候補に選ばれたのは「北海道と北東部の縄文遺跡群(青森など二道三県)九州・山口の近代化産業遺産群(熊本など八県)宗像・沖ノ島と関連遺産群(福岡県)「百舌鳥・古市古墳群(大阪府)の四件。

同特別委は、政府が世界文化遺産に推薦した「平泉の文化遺産」岩手県が、今年七月のユネスコ世界遺産委員会で登録

厳格化の流れを受け、この四件についても佐渡と同様、改善を求めた。文化庁は、宮内庁が保存管理している陵墓を含む百舌鳥以外の四候補

を年内にも暫定リストに追加掲載し、学術調査などが終わったものから登録を推薦する。県と佐渡市は二〇〇六年、相川金

にした提案書を文化庁に提出。〇七年の審査で世界に与えた影響」を示すことを求められ、金銀貨を通じた国際交易などを加筆し、再提案していた。